

2025年の将来像における具体的な個人や家庭の姿の例（案）

(1) 自然の恵みが人を呼ぶ里

Kさん

年齢：第一次石油危機の時に生まれた52才（今の31才）

職業：エコツアーのガイドと環境保全型農業

「我が家を、太陽光発電や高断熱のエコハウスに改築しました。快適で光熱費いらずで老後も安心と、妻にも感謝されています。もちろん家電は省エネ型、車は低公害車です。」

(2) ものづくりのわざが循環をつくる街

Sさん

年齢：バブル経済期に生まれた35才（今の14才）

職業：環境保全型商品製造のエンジニア

「人気の環境にやさしい製品の開発で忙しく働いているので、夫や子供と島で過ごす夏休みが楽しみです。今も、島の有機野菜をおかずに出すと、食卓の会話がはずみます。」

(3) 環境の心で生まれ変わる都会

Yさん

年齢：団塊の世代である77才（今の56才）

職業：NPOでリサイクル、川の浄化等の活動

「トンボ等の虫取りに、マンション住まいの孫がやってきます。老後の貯えの一部は、環境にやさしい企業の株や債権で運用する年金基金にしています。」

(4) 環境が豊かさを招く世界と日本

Tさん

年齢：2004年に生まれた21才

職業：海外ボランティアで途上国に在住

「環境で豊かになることを目指すこの国のあちこちで、日本の技術が生きています。そんな国に暮らして、日本を誇りに思うようになりました。」